

- 三菱自動車、「デリカ」「パジェロ」等計4車種のタカタ製エアバッグのインフレーターの不具合でリコール 13年1月7日～17年1月31日に生産した4万6824台
助手席用エアバッグのインフレーター(膨張装置)において、ガス発生剤の吸湿防止が不適切な為、温度及び湿度変化の繰り返しによりガス発生剤が劣化することがある。この為、エアバッグ展開時にインフレーター容器が破損する恐れがある。
- トヨタ自動車、レクサス「CT200h」の燃料タンクに不具合があるとしてリコール 16年11月21日～17年2月7日に生産した640台
燃料タンクに対してインレットパイプが傾いた状態で溶着され、接合面が部分的に溶け込み不足となっているものがあることが判明。そのため接合面がはがれて、給油時や満タン時に燃料が漏れる恐れがある。
- UDトラックス、大型バス「スペースアロー」・三菱ふそうOEM「エアロスターS」等計5車種の電気配線に不具合があるとしてリコール
発電機に接続されているワイヤーハーネスにおいて、電源ケーブルと信号線の固定方法が不適切な為、走行中の振動により信号線が損傷・断線することがある。その為、そのままの状態で使用を続けると、発電制御ができなくなり、発電機によるバッテリーの充電が行われず警告灯が点灯し、最悪の場合、走行不能になる恐れがある。 05年5月19日～10年8月20日に生産した2
- ポルシェジャパン、「パナメーラ4S」等計5車種のシートベルト非装着時警告装置に不具合があるとしてリコール
16年10月24日～17年9月19日に輸入した463台
運転席シートベルトバックルの状態を監視する制御プログラムが不適切な為、特定の状態でエンジンを始動した際、シートベルトを装着しているにも関わらず、警報装置が消灯しないことがある。その為、シートベルト非装着警報装置の装着を義務付けた保安基準第22条の3の基準に適合しない。
- メルセデス・ベンツ日本、「G350d」等計5車種の横滑り防止装置(ESP)に不具合があるとしてリコール
15年10月18日～17年11月3日に輸入した5553台
ESPコントロールユニットの制御プログラムが不適切な為、クルーズコントロール作動中に同ユニットと運転者支援システムの通信が途絶えた場合、エンジンコントロールユニットに送信し続けることがある。その為、車両が走行し続け、ブレーキオーバーライド機能が作動せず、ブレーキ操作時に操作力が増大し、最悪の場合、制動停止距離が伸びる恐れがある。
- 日産自動車、「セレナ」「キューブ」「NV200バネット」・スズキOEM「ランディ」・三菱OEM「デリカD:3」「デリカバン」の電源分配器に不具合があるとしてリコール
10年2月1日～14年9月29日に生産した31万6759台
電源分配器の基板において、製造時に不要な半田が付着した状態で防湿材がコーティングされたものがあり、使用過程でコーティングに亀裂が発生することがある。その為、高湿環境下でショートが発生。その発熱によって、最悪の場合、車両火災に至る恐れがある。
- メルセデス・ベンツ日本「C63S」等計12車種の横滑り防止装置(ESP)に不具合があるとしてリコール 15年4月14日～17年4月10日に輸入した1303台
ESPコントロールユニットの制御プログラムが不適切な為、濡れた路面等での急発進時にタイヤの空転を制御できず、駆動系に激しい振動が生じ、ディファレンシャルの取付け部に亀裂が入ることがある。その為、使用を続けると、亀裂が展開して取付け部が破損。ディファレンシャルが傾き、最悪の場合、ドライブシャフトが損傷して走行不能になる恐れがある。
- 新明和工業、日産「アトラス」等計7車種のテールゲートリフト装着車について、リフレクターとバックランプが保安基準に適合しないとしてリコール
05年11月23日～17年9月20日に生産した1315台。その他、キット部品として出荷し、組み付けられた車両が特定できない110台も対象となる
電源電圧12Vのテールゲートリフト装着車について、リヤコンビネーションランプのリフレクター部分の選定が不適切な為、反射特性が基準値を満足せず、保安基準第38条の規定に適合しない。又、同24Vのテールゲートリフト装着車については、リフレクターに加え、バックランプの配光特性が基準値を満たしておらず、保安基準第40条の規定に適合しない。
- メルセデス・ベンツ日本、AMG「E43」等計5車種のアアサスペンションに不具合があるとしてリコール 17年4月10日～同年9月19日に輸入した600台
フロントアアサスペンションのアアベローズが製造不適切な為、走行時の振動等により固定金具(サポートリング)が外れ、アアベローズが破損することがある。その為、警告灯が点灯するとともに車体が傾き、最悪の場合、走行安定性を損なう恐れがある。
- FCAジャパン、アルファロメオ「MiTo」のシートベルトプリテンショナーに不具合があるとしてリコール 16年11月24日～17年3月8日に輸入した176台
フロントシートベルトプリテンショナーのガス発生装置が正しく組み付けられていないことが判明。衝突時にプリテンショナーが作動した際、ガス発生装置の容器が内張りを破って車室内に飛び出し、最悪の場合、乗員が負傷する恐れがある。

台

台